

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02464

研究課題名(和文) 私性の調査と自己語り ジャンルとの比較による日本「私小説」の総合的研究

研究課題名(英文) Research of "Watakushi shosetsu" in Japan: Investigation of "Watakushi sei" and the Comparative Perspectives on "Self-narrative" Literature

研究代表者

梅澤 亜由美 (UMEZAWA, Ayumi)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：00710427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：これまで明確に定義されてこなかった日本の「私小説」について、私小説性という新しい概念規定の基準を提示した。テキスト内外の情報から作家の自伝性を示すサインを抽出することで、自伝性を測っていくという方法である。これらを活用した研究の実例として、『「私」から考える文学史 私小説という視座』(2018.10、勉誠出版)を刊行した。また、国際シンポジウム「東アジアの自己語り文学から考える「私小説」」(2019.8.17、大正大学)を開催し、中国、台湾、韓国の自己語り文学との比較から「私小説」を検証した。これらの研究成果は、ウェブサイト「「私」から考える文学史の会」にて公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の「私小説」について私小説性という新しい概念規定の基準を示し、テキストの自伝性を測るための内在的サイン、外在的サインを抽出し、データ一覧を作成した。これらをデータベース化し、ウェブサイトで公開することで、広く利用可能なものとした。

また、東アジア地域における自己語り文学との比較研究を行うことで、日本の「私小説」の研究を国際的な広い視野で行うことが可能となった。たとえば、近年の東アジア地域の自己語り文学にLGBTや「在日」などマイノリティの語りが多いことなど、国や時代によるいくつかの傾向が見えて来た。これら比較研究の有効性から、今後は比較の対象を西欧圏に拡大する。

研究成果の概要(英文)： In this research project, we proposed a new concept of "Watakushi shosetsu sei" to approach Japanese "watakushi shosetsu" that have never been clearly defined. Our method in this project is to extract the signs or elements of autobiography from inside and outside the texts. As an example of research using this method, we published a book titled "A Literary History Based on 'I': From the Perspective of Watakushi shosetsu" (2018), from Bensei Shuppan. In addition, on August 17, 2019, we held an international symposium "Watakushi shosetsu: In the Light of East Asia's 'Self-narrative' Literatures" in Taisho University, to compare Japan's "watakushi shosetsu" with "Self-narrative" Literatures in China, Taiwan, and Korea. We published the results of these researches on our website, "The Society of A Literary History Studies Based on 'I'". (<https://watakushikara.wordpress.com/>)

研究分野：日本近現代文学

キーワード：私小説 自己語り 自伝的小説 日記 東アジア文学 メディア 作家イメージ 計量的分析

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)日本の「私小説」は、一般的に 作者自身の身の経験や心境などを作者自身を主人公として書いた小説(『日本国語大辞典』第二版)と定義され、日本近代独特の小説形式と考えられてきた。だが、伝統的な「私小説」の研究では、そもそも「私小説」とはどのようなものかという明確な定義がなされることなく、所与の存在としてそれを日本的特性として肯定するか、逆に封建的遺構として批判するかであった。1990年代になってからは、イルメラ・日地谷=キルシュネライト『私小説 自己暴露の儀式』(三島憲一他訳、1992、平凡社) 続く鈴木登美『語られた自己 日本近代の私小説言説』(大内和子・雲和子訳、2000、岩波書店)など、ナラトロジー理論の影響を受けた国外の日本研究の立場から、「私小説」の実在性に疑問符が付され、近年はその概念を捨象する研究が主流となっている。

国内においても日比嘉高(『自己表象の文学史』(2008、翰林書房) 山口直孝『「私」を語る小説の誕生』(2011、翰林書房)のように、「私小説」の実在性を捨象して特定の時代の社会的・文壇的現象として論じる傾向が続いた。これらは、「私小説」を前近代的な小説形式として否定してきた過去の研究と一線を画すものであったが、作品選択に網羅性がなく、また「私小説」概念そのものの解体を目指したため、結果的に未検討の作品を数多く残したまま、課題を見えにくくしてしまった。そこで、本研究では「私小説」はやはり日本の近現代文学史を貫く通史的問題であり、またそこには外在的な小説の形式が確かに存在しているという立場をとる。その上で、後に示すような網羅的な私小説性の調査により「私小説」を序列化することで、その全貌を明らかにし定義・範囲の確定を目指す。

(2)上記のような国内の研究状況に対して、国外では「私小説」を自己語り(Self-Narratives)の1手法とみなして、他の文学ジャンルと接続・比較する研究が盛んに行われていた。欧米圏では、2012年12月ドイツのベルリン自由大学で行われたワークショップ「Self-Narratives in Japanese Studies:Literature and History」、アジア圏では2015年9月韓国の東国大学で開催された学術大会「在日朝鮮人叙事の私」が代表的なものである。これらの共同研究は自伝や日記といった自己語りジャンル全体の研究であり、「私小説」もその素材の1つとして位置づけられる。研究代表者は、過去に科学研究費助成事業「アジア文化との比較に見る日本の「私小説」

アジア諸言語、英語との翻訳比較を契機に」(基盤研究C、18520138、代表者:勝又浩)に研究協力者として参加したこともあり、上記2つの研究にも「私小説」の報告者として参加した。それによって、時制や人称の違いなど「私小説」のみを対象とした研究とは異なる成果を得ることができた。よって、本研究では、これらの研究との接続を視野に入れ、国内の研究組織、国外の研究者の協力を得て、「私小説」と自己語りジャンルとの比較・接続を目指す。

### 2. 研究の目的

(1)本研究の萌芽は2014年に発足した研究会にあるが、その過程において、あるテキストを「私小説」である/でないの二項対立で考える限り、これまでの研究上のアポリアを脱することはできないという判断に至った。おそらく「私小説」とは、書き手が作者を連想させる情報をテキストに込め、読み手がそれを受け取る関係性、つまり読み書きのモードによって成立している。そこで、本研究では、作者と登場人物が一致する小説を広義の「私小説」と捉え、作者はどのように自作に私像を投影し、読者は何によって作者の私像を読みとっているのかを調査する。具体的には、ある作家の非「私小説」的な作品を含む全てのテキストを対象として、「私小説」を成立させる情報=私性を示すサインをテキストから抽出し一覧化。それらをサインの多寡によって序列化し、仮想的な「私小説」のプロトタイプを設定する。これによって、形式的な範囲確定が困難とされてきた「私小説」の全貌を可視化することを目的とする。

(2)これまで検証されることが少なかった「私小説」の日本的特性や小説的特性について、具体的に検証する。そのために、様々な言語で書かれた各国の自己語り文学、あるいは日記や自伝的小説といった多様な自己語りジャンルとの比較検討を行う。すでに述べたような国外で進展している自己語り文学の研究方法を導入、接続・比較研究を行うことによって、「私小説」を自己語りの1ジャンルとして普遍的に定義しなおす。もう少し言えば、東アジア地域をはじめとした国外の自己語り文学を研究する研究者を交えての国際シンポジウム、国内の日記を研究する研究組織の研究会に相互参加をすることで、日本の「私小説」の日本的特色、ジャンルの特色を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)まずは「私小説」の可視化のための作業として、サインの抽出によるデータの一覧化、および分析を行う。具体的には、国内研究グループのメンバーが、担当する作家の全集等を用い、網羅的にその作家のテキストから私性を示すサインを抜き出して、一覧表を作成していく。一覧表の項目に関しては、タイトル、掲載誌名、初出年月、作者の登場名、視点人物、職業、その他のテキスト内のサイン、テキスト外のサインなどである。これらを統合してウェブサイト上にて公開、あわせて計量的分析手法を用いて数値化、「私小説」のプロトタイプを確定していく。国内研究グループは、研究代表者・分担者6名の他、国内研究協力者3名によってなり、A:明治・大正期、B:昭和前期、C:昭和後期の3つのワーキンググループによって活動して

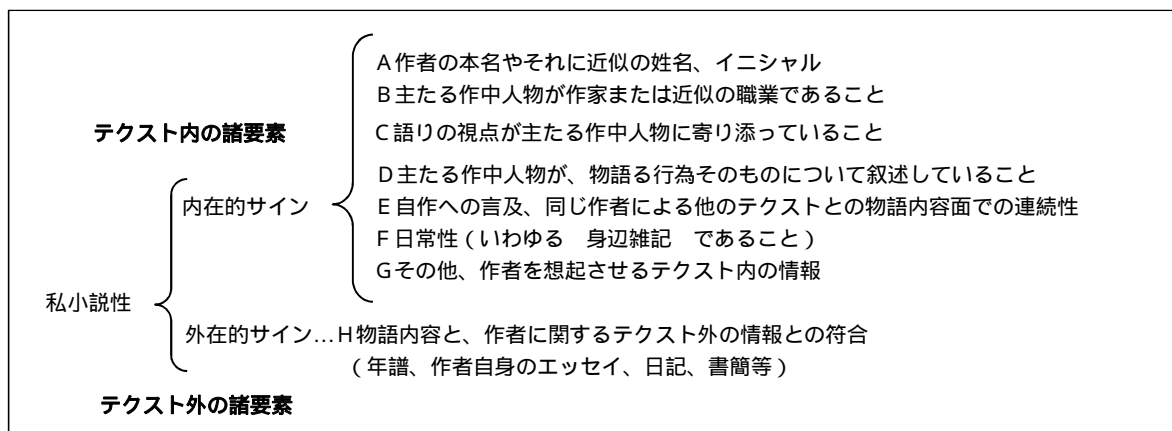
いく。あわせて、研究グループでは補いきれない範囲について、専門の研究者に適宜、調査依頼を行っていく。上記の作業とともに、データ、およびその分析に関する定例研究会を年に3回開催し、最終的には、学会での発表、あるいは外部の研究者を招聘しての公開研究会にて、その成果について発表する。

(2) その他の 自己語り ジャンルとの接続・比較研究のために、国内の近代日本の日記を研究する組織(科学研究費助成事業「活字化された日記資料群の総合と分析に基づく近代日本の「日記文化」の実態解明」若手研究B、17K13397、代表者:田中祐介)と提携し、研究会の相互参加を行う。更に、「私小説」を 自己語り の1ジャンルとして普遍化、発信するために、国際シンポジウムを開催する。具体的には、4名のアジア圏の国外協力者は、各地域における「私小説」の研究の現状調査、本研究の 私小説性 の概念をふまえての各地域の 自己語り 文学と日本の「私小説」との比較研究を行う。については、国際シンポジウムのためのプレ会議を開催し、報告を受ける。については国際シンポジウムを開催し、国内外の研究組織全体で検討を行う。これによって、自己語り としての「私小説」の特色、およびこれまで曖昧なまま放置されてきた「私小説」の日本的な特性を具体的に明らかにする。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究では「私小説」を可視化するための基準を模索してきた。私 性という概念から出発し、試行錯誤の末 私小説性 内在的サイン 外在的サイン という3つの指標を確定することができた。私小説性 とは、どんな作品にも程度として作者自身が現れていると考え、その強弱を表現する指標である。内在的サイン と 外在的サイン は、その下位カテゴリーである。内在的サイン とは、作者の 私 性を想起させ、テキストを「私小説」として読むことを要請するテキスト内の要素であり、外在的サイン とはテキストの 事実 性の認定に参照されるテキスト外部の情報である。詳しくは、図1のようになる。これら サイン を抽出し、統計を取っていく作業は、2020年度科学研究費助成事業「私小説性 の計量的分析と国際比較による 自己語り 文学の発展的研究」(基盤研究C、20K00347、代表者:梅澤亜由美)に継続していく。

【図1】 私小説性 を構成する諸要素



(小林洋介「一九二〇年代の横光利一テキストにおける 私小説性 の諸要素 「私」性と 事実性 による享受のシステム」「私」から考える文学史 私小説という視座」より)

(2) 2018年10月27、28日に岩手県立大学で開催された日本近代文学会秋季大会において、「私小説」をどのように考えるか? 私小説性 概念による再検討の試み」というテーマで、パネル発表を行った。以下のように、6名の発表者が、新たな「私小説」研究の指標としての 私小説性 の概念に基づいての発表を行った。本パネル発表は、(1)で提示した「私小説」の新たな研究方法の初の実践例となった。

- 大木志門「本パネルの趣旨と方法について 田山花袋と徳田秋聲を例に」
- 梅澤亜由美「広和郎の初期テキストから考える 私小説性 の強弱について」
- 河野龍也「戯画化される「私」 佐藤春夫の「清吉もの」と失恋詩」
- 小林洋介「私小説性 の極点としての横光利一『夜の靴』 小説らしさ の限界線」
- 尾形大「『鳴海仙吉』における 私小説性 の転回 「私」の複数性 の推移を中心に」
- 小嶋洋輔「第三の新人 小説の「私」とエッセイの「私」」

(3) 2018年10月に、『「私」から考える文学史 私小説という視座』を勉誠出版より刊行し

た。16本の論考、16本のコラム、および3名の作家によるインタビューを通して、本研究が提示した私小説性のサインの概念を応用した研究の実例を提示した。本研究の代表者、分担者、協力者による論考は以下の通りである(田中氏は3-(2)であげた協力している研究組織の研究者である)。

大木志門「田山花袋と徳田秋聲における「私」性と「文体」の生成」  
梅澤亜由美「一九二〇年の「私」小説 白樺派から奇蹟派、そして宇野浩二へ」  
河野龍也「告白の相手は誰か 佐藤春夫の詩と私小説」  
小澤純「菊池寛 啓吉もの と芥川龍之介 保吉もの の間 新思潮派という物語 に棲むキャラクター達」  
田中祐介「真摯な自己語りに入る他者たちの声 第二高等学校『忠愛寮日誌』にみるキリスト教主義学生の「読み書きのモード」」  
小林洋介「一九二〇年代の横光利一テキストにおける 私小説性 の諸要素 「私」性と事実性 による享受のシステム」  
尾形大「伊藤整における私小説の模索と転回 「得能もの」から自伝小説「北国」へ」  
井原あや「私」を応用する 一九四〇年代前半の太宰治小説」  
大原祐治「私」と「歴史」のあいだ 坂口安吾と私小説」  
小嶋洋輔「安岡章太郎『私説聊斎志異』論 「私」の小説化」

(4)日本の「私小説」と東アジア地域における自己語りの国際比較を行った。2018年8月20日に、本研究の国外協力者でもある周硯舒(中国:内蒙古大) 張文薫(台湾:台湾大) 姜宇源庸(韓国:CATHOLIC 関東大) 李漢正(韓国:祥明大)氏を招き、国際シンポジウムのプレ会議を開催した。プレ会議においては、2019年開催の国際シンポジウムに向けて、国外研究協力者から各地域における日本の「私小説」の研究の現状、および各地域の自己語り文学の現状の報告を受けた。また、ここまで述べてきたような本研究会の研究の目的、手法についての情報の共有を行った。最後に共同討議として、互いの研究についての質疑応答、次年度シンポジウムへの問題提起を行った。

上記を経て2019年8月17日、大正大学にて国際シンポジウム「東アジアの自己語り文学から考える「私小説」」を開催した。第1部、第2部の構成で、内容は以下のようになっている。これらの研究によって、西欧の自己語り文学との比較など新たな課題を得ることで、2020年度科研費研究「私小説性の計量的分析と国際比較による自己語り文学の発展的研究」に繋げることができた。これらの研究成果については、現在、公表の準備を進めている。

#### 【第1部】

李漢正(韓国:祥明大)「在日文学の「私小説性」と韓国」  
周硯舒(中国:内蒙古大)「中国における日本私小説の翻訳と受容」  
張文薫(台湾:台湾大)「台湾同性愛文学と「私小説」」  
姜宇源庸(韓国:CATHOLIC 関東大)「韓国女性作家の自伝小説 キム・ヒョンギョンの『歲月』から見る「自己語り」という儀式」

#### 【第2部】

「東アジアの自己語り文学から考える「私小説」」  
パネラリスト: 李漢正、周硯舒、張文薫、姜宇源庸  
ディスカッサント: 日比嘉高(名古屋大)、梅澤亜由美(大正大)  
司会: 大木志門(山梨大)

(5)データベースをはじめとする研究成果の公開のための作業として、これまで集積してきたデータを公表するため、ウェブサイト「私」から考える文学史の会」を立ち上げた。当サイトでは、研究会の記録なども公開している(<https://watakushikara.wordpress.com/>)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小林洋介	4. 巻 第94巻5号
2. 論文標題 戦間期モダニズムとしての散文詩理論 雑誌『詩と詩論』とその周辺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 67 - 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大原祐治	4. 巻 第76集
2. 論文標題 所有と欲望 「歴史小説」としての「桜の森の満開の下」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小嶋洋輔	4. 巻 第23号
2. 論文標題 [調査報告]島尾敏雄と琉球弧 かがしま近代文学館所蔵資料から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名桜大学紀要	6. 最初と最後の頁 79-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大原祐治	4. 巻 51
2. 論文標題 文学者は「歴史」をどう書くのか 坂口安吾の場合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 85-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木志門	4. 巻 80
2. 論文標題 東アジアにおける私小説の「越境性」 国際シンポジウムから見えるもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊文科	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋洋輔	4. 巻 1
2. 論文標題 戦後沖縄県の文学と「貧困」「復帰」以降を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環太平洋地域文化研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 梅澤亜由美
2. 発表標題 現代韓国文学の<周縁>から考える<自己語り>
3. 学会等名 昭和文学会 春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大木志門
2. 発表標題 『換菓篇』の敬、不敬 鏡花「菓草取」と秋聲「出獄」を中心に
3. 学会等名 泉鏡花研究会 第69回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小嶋洋輔
2. 発表標題 島尾敏雄と「沖縄県」 昭和50年代の沖縄滞在資料から
3. 学会等名 沖縄文化協会 公開研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小嶋洋輔
2. 発表標題 島尾敏雄と昔話 島尾敏雄『東北と奄美の昔ばなし』から
3. 学会等名 奄美沖縄民間文芸学会 名護大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大木志門
2. 発表標題 1907年の秋聲と鏡花
3. 学会等名 泉鏡花記念館企画展関連講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小嶋洋輔
2. 発表標題 「書き分ける」作家としての遠藤周作
3. 学会等名 遠藤周作文学館第35回文学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大原祐治
2. 発表標題 文学とサブカルチャーの接触面 地層としてのテキスト
3. 学会等名 上海外国語大学日本文化経済学院公開講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大原祐治
2. 発表標題 井伏鱒二「寒山拾得」を読む 芸術の意味および価値の生成に関する寓話として
3. 学会等名 上海師範大学外国語学院華英論壇（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大原祐治
2. 発表標題 夏目漱石『それから』を読む 文学研究における情動論的転回の一例として
3. 学会等名 華東理工大学外国語学院日語系学術講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大原祐治
2. 発表標題 帰還船からの眺め 逆さまに読む大岡昇平『俘虜記』
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム 第7回台北大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 大木志門
2. 発表標題 水上勉文学における自己語りの諸相
3. 学会等名 学際シンポジウム「近代日本を生きた「人々」の日記に向き合い、未来へ継承する」(明治学院大学、研究プロジェクト「近代日本の日記文化と自己表象」主催)(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 井原あや、梅澤亜由美、大木志門、大原祐治、尾形大、小澤純、河野龍也、小林洋介、佐伯一麦、青木淳悟、水村美苗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 「私」から考える文学史 私小説という視座	

1. 著者名 木越治、勝又基編〔大木志門執筆〕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 488
3. 書名 怪異を読む・書く〔担当箇所：「お化け」を出すか、出さないか 泉鏡花と徳田秋聲から見る日露戦後の文学〕	

1. 著者名 朴光賢、許炳植編〔梅澤亜由美執筆〕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 韓国：亦楽	5. 総ページ数 257
3. 書名 在日朝鮮人の自己叙事と文化地理〔担当箇所：私小説の文法で読む在日朝鮮人文学 李恢成と李良枝を中心として〕	

1. 著者名 河野龍也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 432
3. 書名 佐藤春夫と大正日本の感性 「物語」を超えて	

1. 著者名 河野龍也編 [河野龍也執筆]	4. 発行年 2019年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 348
3. 書名 実践女子大学蔵・梶井基次郎「檸檬」を含む草稿群 瀬山の話 [担当箇所:「檸檬」の忘れ物 その秘められた起爆力]	

1. 著者名 坪井秀人 [大原祐治執筆]	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 603
3. 書名 戦後日本文化再考 [担当箇所:地方を語る / 地方で語る 地方雑誌から見る占領期]	

1. 著者名 小澤純共編著 [小澤純執筆]	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 359
3. 書名 太宰治と戦争 [担当箇所:「日本一」を書くこと、書かないこと 「散華」・『お伽草紙』・「未帰還の友に」のテキスト連関]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ウェブサイト  
「私」から考える文学史の会」  
<https://watakushikara.wordpress.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大木 志門  (Oki Shimon)  (00726424)	山梨大学・大学院総合研究部・准教授   (13501)	
研究分担者	小林 洋介  (Kobayashi Yosuke)  (00757297)	比治山大学・現代文化学部・准教授   (35410)	
研究分担者	河野 龍也  (Kono Tatsuya)  (20511827)	実践女子大学・文学部・教授   (32618)	
研究分担者	大原 祐治  (Ohara Yuji)  (40554184)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授   (12501)	
研究分担者	小嶋 洋輔  (Kojima Yosuke)  (50571618)	名城大学・国際学部・上級准教授   (28003)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	井原 あや  (Ihara Aya)		
研究協力者	尾形 大  (Ogata Dai)		
研究協力者	小澤 純  (Ozawa Jun)		
研究協力者	李 漢正  (Lee Hanjung)		
研究協力者	姜宇 源庸  (Kang Woowonyoung)		
研究協力者	張 文薫  (Chang Wenhsun)		
研究協力者	周 硯舒  (Zhou Yanshu)		